

地域一体型の伝統芸能の継承活動 - 勝坂神楽の事例から

浜松学院大学 現代コミュニケーション学部

指導教員：教授 津村公博

非常勤講師 田島喜代美

参加学生：古川竣大

江部舞 岡崎諒 古水しおり 角谷奏樹

樽松依吹 松井歩乃華 山下実滯那

山谷優実 内野里穂 大石悠月 加子康太

河守創汰 河原崎賢治 小泉優人 新村大五

鈴木愛梨 名刀颯真 深田瑞希 結城日和

1 要約

伝統芸能は地域の歴史や文化を伝える重要な要素であり、その伝承や継承は地域のアイデンティティの形成にもつながっている。少子高齢化による若年層の減少や、都市部への人口流出によって、地域の伝統芸能を継承する人材が減少し、その維持が困難になっている。伝統芸能継承の担い手がいなくなることにより、その技術や知識が失われ伝統芸能が消滅する可能性がある。天竜区春野町勝坂地区に420年間に渡り伝わる伝統芸能、浜松市指定無形民俗文化財「勝坂神楽」の保存会のうち、本年は2名が逝去し、現在地域に暮らすメンバーは3名となり、その継承が急がれる。

本研究は、伝統芸能継承を地域全体で取り組むプラットフォームの構築を目的とし、学校教育における伝統芸能継承の導入、そのためのオンライン教材や動画コンテンツを提供した。また大学生による、体験教室やリモートによる伝統芸能の継承プログラムの提供に取り組んだ。

2 研究の目的

浜松市内の大学に在籍する大学生で構成される「NP0法人わたぼうしグランドデザイン」による伝統芸能継承の取り組みから、勝坂神楽開催へのプロセスを通して、伝統芸能の継承に関する課題とその解決手段を明らかにする。

3 研究の内容

本研究は、勝坂神楽の継承に焦点を当て、存続が危ぶまれている勝坂神楽の再開に向けた取り組みを通して、勝坂神楽の伝承と保存に関するプロセスを学術的かつ体系的に明らかにし、他の継承困難な地域においても、地域全体で進取性が高く、汎用性のある伝統芸能継承モデルを提案する。

4 研究の成果

(1) 当初の計画 以下の3つである。

(1) 学校教育における伝統芸能の導入

地域の伝統芸能を教材に取り入れ、大学生を介して児童・生徒に伝承の意義や技術を学ぶ。

(2) オンライン教材や動画コンテンツの提供

地域の伝統芸能に関するオンライン教材や動画コンテンツを、大学生を介して児童・生徒対してリモートで提供する。

(3) 地域の伝統芸能の体験プログラムの提供

地域の大学生のコーディネートにより児童生徒が伝統芸能を実際に体験することで、その魅力や技術を身に付ける。

(1) (2) (3) の当初の計画を効率よく効果的に実現するため、わたぼうしグランドデザインを軸とした、「勝坂神楽継承実行委員会」を設立し、地域が一体となり、勝坂神楽を継承していくプラットフォームの構築を目指した。

(2) 実際の内容

年間を通した、NP0法人わたぼうしグランドデザインの活動内容は、継承活動、伝統芸能継承プラットフォームの構築、アドボカシー活動（教育・啓発）、伝統芸能の記録等多岐に渡る。こ

これらの活動は、連続性があるため。一括して以下に示した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
							前日まで	前日当日
勝坂神楽保存会	開催に向けた打合せ	開催中止の方向性 勝坂神楽保存会の中心メンバー（舞・獅子頭） 兼自治会会長・お囃子の中心メンバーが急逝 勝坂自治会反対・保存会開催			勝坂神楽開催許可審査会 ステークホルダーが 多数参加	打ち合わせ 勝坂神楽の舞・お囃子（笛・太鼓）全てを担うことを決定 正式稽古/自主稽古 保存会旧メンバーから非公式指導	神社清掃 祭りの飾り付け	
わたぼうし グランドデザイン		自主稽古開始 保存会旧メンバーから非公式に指導 勝坂神楽の記録・保存			第1回勝坂神楽体験教室 春野文化センター開催 準備		リハーサル、自治会の支援、 保存会と祭礼実施、配信事業 記録	
伝統芸能 プラットフォーム		5月：開催準備 春野地区中学・高校、春野協働センター、春野文化センター 6月：実行委員会設立提案：関係者から 慎重発言 7月：個々の団体・組織、関係者との個別に協力要請へ 方向転換				勝坂神楽体験教室募集の協力依頼 春野中学・天竜高校春野校舎、 春野文化センター、春野協働セン ターへ訪問 →参加者未達のため教室開催変更	ステークホルダー多数参加 勝坂神楽体験教室：勝坂地区開催 →参加者未達のため教室開催変更	
アドボカシー活動						代替 ：勝坂神楽体験教室開催1 （都市部：大学生交流フェスタ） 代替 ：勝坂神楽体験教室開催2 （都市部：アクト通りふれあいディ）	積極的なメディア配信 （関連新聞記事 6件） 勝坂神楽当日のライブ配信 （浜松市受託事業ザ・山フェス）	

（３）実績・成果と課題

（１）伝統芸能の保存 勝坂神楽を映像や音声で記録すること 踊りお囃子を後世に伝える	A 予定通り 勝坂神楽の開催中止の方向性が保存会から告げられて以来、これまで9年間の写真・動画、伝統芸能体験教室に作成した指導動画を整理した。
（２）伝統芸能の継承 地域の伝統芸能を継承するために、 児童・生徒を対象として後継者を育成する。	B 一部修正 春野地区の児童を対象とした勝坂伝統芸能体験教室は参加者が定員に満たなかったため、代替として、浜松市内都市部において、勝坂伝統芸能体験教室を開催した。
（３）新しい芸能の創出 大学生・児童・生徒が、地域の伝統を保存。継承しながら、自分たちのアイデアや創意工夫を加え、新しい芸能の見せ方を創造する。	A 予定通り 勝坂神楽当日のライブ配信（浜松市受託事業ザ・山フェス）を実施した。準備段階では、配信に関しては業者と打ち合わせし、前日・当日は、わたぼうしグランドデザインのみで配信機材を用意して、学生レポーターにより、勝坂神楽を独自で生中継した。保存会直伝の稽古記録について、記録のデジタル化を進め、オンラインプラットフォームに格納した。その活用については、学生のライフスタイルに合わせた、学習モジュールを模索した。継承活動の映像化に向けて、記録と編集に着手した。

上記（１）～（３）について、「勝坂神楽継承実行委員会」の設立を目指したが、提案が見送られたため、わたぼうしグランドデザインが主催となって、プロジェクトを立ち上げ、各ステークホルダーは、後援または協力として参加した。

主催	NPO法人わたぼうしグランドデザイン/一般社団法人 College Impact Japan
共催	勝坂神楽保存会
後援	浜松市/春野中学校区青少年健全育成会/天竜区観光協会春野支部/公益社団法人全日本郷土芸能協会
協力	浜松市春野協働センター/春野文化センター/浜松市立春野中学校, 静岡県立天竜高等学校春野校舎
助成	公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム

（４）今後の改善点や対策

当初の計画通り、前述した3点は実現することができた。しかし、申請時に新しい提案として提言していた「勝坂神楽継承実行委員会」の設置を、実現することができなかった。静岡県立天竜高校春野校舎、浜松市立春野中学校、浜松市春野協働センター、浜松市春野文化センター（生涯学習課）等、地域のステークホルダーとの懇談会において、継承が抱える課題については共有することができたが、「勝坂神楽継承実行委員会」の設置を提案した際には、慎重な意見が続いた。会議の中では、「新しい枠組みを構築しなくても、既存の枠組みの中で一つの課題として捉えて議論すればよいのではないか。」という意見が主流であった。委員会を設立することで、伝統芸能継承への取り組みを、地域が一体となって実現することを目指して、来年度以降も、引き続き勝坂神楽継承プラットフォームの構築を試みたい。継承については、中心となっていた保存会メンバーの2名が本年急逝し、残されたメンバーも高齢化により継承が困難となり、早急な対応が急がれる。デジタル技術を活用した保存とオンラインプラットフォームの構築が使命となる。

5 課題提出者・地域への提言

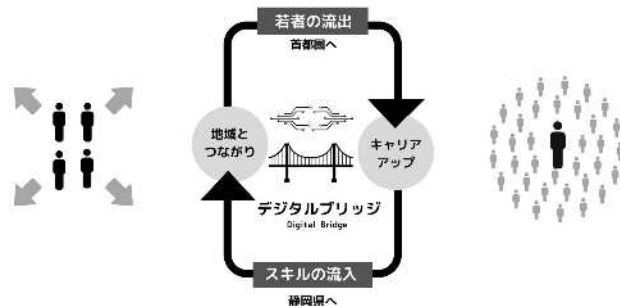
「デジタル・ブリッジ」 新しい伝統芸能プラットフォームモデルの構築

地域の少子高齢化による地方自治体が消滅する時代を迎えて、デジタル技術の活用が必要であると提言したい。

「デジタル・ブリッジ」とは、「デジタル」と「ブリッジ」を組み合わせた造語である。デジタル技術を活用して、地域内での継承を越えて、地域と首都圏及び地域と地域の人々をつなぐという意味合いを表している。デジタル技術を用いることで、遠隔地からの学習や継承が可能となり、後継者育成や普及活動の幅が広がる。

デジタル・ブリッジ

1. 首都圏において、首都圏に転居した若者に対してデジタル・ブリッジへの参加募集
2. デジタル・ブリッジによる後継者育成プログラムの実施
3. デジタル・ブリッジによるオンライン講座の開講
4. デジタル技術を用いた地域伝統芸能の映像配信



6 課題提出者・地域からの評価

浜松市天竜区春野町の地域のステークホルダーからは概ね好意的な評価が寄せられた。各機関からのコメントには感謝の意が示され、大学生による伝統芸能継承活動への協力の意向も示された。一方で、提案のタイミングや学校教育における総合の時間、部活動の時期など、実施に関する課題や配慮が指摘されており、これらに対処する必要がある。また、保護者の世代には伝統芸能への理解が薄いとの指摘もあり、認識向上の取り組みが求められる。総じて、地域の伝統文化継承への期待が高まっており、今後の改善や調整を通じて、より良い成果を上げることが期待されている。

聞き取り調査

1	静岡県立天竜高等学校 春野校舎	副校長	良い企画であるので生徒個人で参加するように伝えた。春野町外から通学している生徒が多い。学校全体で動くには、もう少し早く提案が欲しい。
2	浜松市立春野中学校	校長	地域行事やボランティア活動の参加として促した。大学生と協力して地域の伝統芸能を守っていくことは大切だと考える。
3	浜松市春野支所	支所長	4年に及ぶコロナ禍にも関わらず、遠方から幾度となく地元に足を運ぶ中で、継承にかける「想いと情熱」が、保存会皆さんの心を突き動かしたものと感じている。400年以上も継承されてきた伝統行事がゆえに厳しい指導があったが、見事この試練をも克服し、素晴らしい舞を披露された。多くの観客の方たちに「誇りと感動」を与え、感謝の念で一杯であり、さらなる精進と継承の輪が広がっていくことを願う。地元行政として、引き続き連携・協力体制で臨んでいく。(支所長コメント)
4	浜松市春野文化センター	グループ長	コロナ禍でも絶やすことのなかった練習に更に磨きをかけて挑まれた4年ぶりの舞の奉納は素晴らしかった。地域の小・中学生への伝承教室が開催できなかったことについては、残念であるが、今後は学校との連携を図りながら、活動の輪を幅広い世代に広げていってもらえるよう私たちも努力していく。(グループ長コメント)
5	浜松市文化財課	担当者	2月に伝統芸能継承活動をみなさんから市長に直接、報告して頂くよう機会を設ける。
6	浜松市土地政策課	景観・歴史まちづくりグループ長	浜松市固有の歴史及び伝統を反映した活動を継承する取り組みに敬意を表す。単に「維持・継承」するだけでなく、「向上・活用」するための調査・研究を進めていることは、地域の伝統的な活動が抱える問題や背景を深く分析している証左だと感じた行政として今後も連携を図っていくことが必要と考えており、歴史まちづくり法に基づく歴史的風致維持向上支援法人の指定を検討するとともに、歴史文化を活かしたまちづくりの中核として活動されることを期待する。(グループ長コメント)

参考資料 1

人口統計による少子・高齢化の現状

浜松市全域の割合	面積	森林面積	人口
中山間地域（天竜区・浜名区引佐町北部）	65.65%	92.3%	4.42%

「浜松市中山間地域振興計画 - みんなでやらまいか宣言！」から表改変

勝坂地区に在住する人数の推移と勝坂神楽の開催

年	自治会	保存会	勝坂神楽（祭り）	神事
2015年	15人	10人	○	○
2020年	12人	6人	中止	○
2021年	12人	6人	中止	○
2022年	9人	5人	中止	○
2023年	7人	3人	○	○

※NPO法人わたぼうしグランドデザインによる聞き取り調査

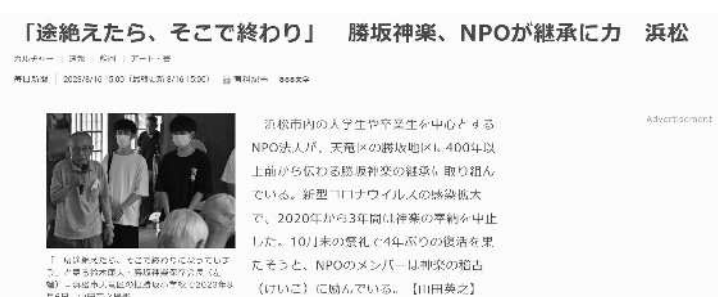
参考資料2 メディア発信



2023年8月7日_静岡新聞



2023年10月27日_静岡新聞



2023年8月16日_毎日新聞



2023年10月30日_静岡新聞

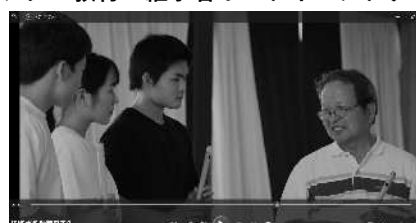
参考資料3 成果物



フライヤー



デジタル教材・継承者オンラインプラットフォーム



継承ドキュメンタリー映像制作